四旬節第五主日　2014.4.6

ラザロの生き返り

ヨハネ福音書 11 章 1-45 節

11:1 ある病人がいた。マリアとその姉妹マルタの村、ベタニアの出身で、ラザロといった。

11:2 このマリアは主に香油を塗り、髪の毛で主の足をぬぐった女である。その兄弟ラザロが病気であった。

11:3 姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「主よ、あなたの愛しておられる者が病気なのです」と言わせた。

11:4 イエスは、それを聞いて言われた。「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである。」

11:5 イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。

11:6 ラザロが病気だと聞いてからも、なお二日間同じ所に滞在された。

11:7 それから、弟子たちに言われた。「もう一度、ユダヤに行こう。」

11:8 弟子たちは言った。「ラビ、ユダヤ人たちがついこの間もあなたを石で打ち殺そうとしたのに、またそこへ行かれるのですか。」

11:9 イエスはお答えになった。「昼間は十二時間あるではないか。昼のうちに歩けば、つまずくことはない。この世の光を見ているからだ。

11:10 しかし、夜歩けば、つまずく。その人の内に光がないからである。」

11:11 こうお話しになり、また、その後で言われた。「わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼を起こしに行く。」

11:12 弟子たちは、「主よ、眠っているのであれば、助かるでしょう」と言った。

11:13 イエスはラザロの死について話されたのだが、弟子たちは、ただ眠りについて話されたものと思ったのである。

11:14 そこでイエスは、はっきりと言われた。「ラザロは死んだのだ。
11:15 わたしがその場に居合わせなかったのは、あなたがたにとってよかった。あなたがたが信じるようになるためである。さあ、彼のところへ行こう。」
11:16 すると、ディディモと呼ばれるトマスが、仲間の弟子たちに、「わたしたちも行って、一緒に死のうではないか」と言った。
11:17 さて、イエスが行って御覧になると、ラザロは墓に葬られて既に四日もたっていた。
11:18 ベタニアはエルサレムに近く、十五スタディオンほどのところにあった。
11:19 マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来ていた。
11:20 マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎えに行ったが、マリアは家の中に座っていた。
11:21 マルタはイエスに言った。「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかったでしょうに。
11:22 しかし、あなたが神にお願いになることは何でも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」
11:23 イエスが、「あなたの兄弟は復活する」と言われると、
11:24 マルタは、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」と言った。
11:25 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。
11:26 生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」
11:27 マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」
11:28 マルタは、こう言ってから、家に帰って姉妹のマリアを呼び、「先生が

いらして、あなたをお呼びです」と耳打ちした。
11:29 マリアはこれを聞くと、すぐに立ち上がり、イエスのもとに行った。
11:30 イエスはまだ村には入らず、マルタが出迎えた場所におられた。
11:31 家の中でマリアと一緒にいて、慰めていたユダヤ人たちは、彼女が急に立ち上がって出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだろうと思い、後を追った。
11:32 マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかったでしょうに」と言った。
11:33 イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、
11:34 言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。
11:35 イエスは涙を流された。
11:36 ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。
11:37 しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか」と言う者もいた。
11:38 イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に来られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。
11:39 イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」と言った。
11:40 イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。
11:41 人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わた

しの願いを聞き入れてくださって感謝します。
11:42 わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」
11:43 こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。
11:44 すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。
11:45 マリアのところに来て、イエスのなさったことを目撃したユダヤ人の多くは、イエスを信じた。

説教

その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」創世記 3:8-9

「どこに葬ったのか」イエスもまた問いかけます。
アダムは楽園から追放されました。それとは対照的にラザロは手と足を布で巻かれたまま墓から出てきます。イエスは続いてこう言います。「ほどいてやって、行かせなさい」ラザロの死体を包む布は罪の象徴、それをほどくとは罪の赦しであると教父アウグスティヌスは教えてます。このようにしてラザロは生き返りました。
ゾーエーとプシュケーというギリシア語があります。日本語ではどちらも「いのち」と訳されます。ゾーエーとは本当の命、プシュケーとはただ生きているだけの命と区別されます。イエスは人間を死なないようにするために来たのではなく、復活させるために来たのです。それは命でいうならば、タダ生きているだけの命ではなく、本当の命に生きるようにするためだといえます。
アダムの楽園追放のもう一つの理由が創世記にはこう書かれています。

こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るために、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎を置かれた。創世記 3:24

主なる神は善悪の木を食べた人間を信用せず、彼から命の木を守るためにエデンの園から追放しました。ところで、命の木はイエス・キリストによって唐突に与えられます。

マルタの「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかったでしょうに」から始まるイエスとの問答は最後にこのように結ばれています。

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命（ゾーエー）である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」11:25-27

イエスのことばが真であるゆえに、この告白でマルタは「決して死ぬことのない」命（ゾーエー）を与えられました。

マリアの発言はマルタと同じことばで始まりますが、すぐに泣いてしまい次のことばがでてきません。イエスは感情が高まり、まわりにいたユダヤ人たちに向かってこう言います。「どこに葬ったのか」そしてイエスは泣きます。それを見て、弔問に来たユダヤ人たちがこう言い出します。

「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか」と言う者もいた。11:36-37

ベタニアはエルサレムから３キロほど離れたところにある村です。ユダヤ人の中には９章の盲人の癒しの目撃者もいたかもしれないし、そのうわさは耳にしていたことでしょう。今度は彼らはイエスがラザロを死なないようにすることの証人としてではなく、イエスが死人を生き返らせるという事実の証人となるように、この場に立っています。

墓の前で「ラザロ、出て来なさい」と叫ぶのはなぜか？名指しでいわないと

死人が大勢でてくるから。
わたしはこの話を初めて聞いたとき、なるほどと感心し、笑い話であることに気づくのにずいぶんと時間がかかりました。
福音書のイエスはある特定の人にいやしを与えます。イエスの奇跡はすべての人におきるわけではありません。このことはわたしの心の中でずーとひっかかっています。5000 人にパンを与えたのならば、5 万人に 5 億人に与えてもいいだろうとか、盲人の目を開くのであれば、なぜ世界中の盲人の目を開かないのかという引っ掛かりです。荒野での悪魔との対決ですでにイエスは三つの誘惑を退けています。そのことは福音を聴き、そして理解できているつもりです。しかし気持ちとしては納得しかねるところが残ります。イエス最後にして最大の「しるし」のこの物語が「ある病人がいた」と始まるところに納得するヒントがあるかもしれません。すぐに病人とはラザロであると明かされますが、始まりはある病人がいたであり、それはある善人がいたでもいいだろうし、ある裕福な人でも、ある盲人がいたでもなんでもいい、あえて誰と特定していないと読むことはできないでしょうか。特定していないのであれば、病人はあなたでもいいし、わたしでもいいわけです。「この病は死には至らず」と言いますが、それでもラザロは死にます。「死」がこの物語の起点です。人はみな平等に死ぬものと定められています。
イエスはラザロに出てきなさいと呼ばわる前に、マルタに信じるかと問いかけます。マルタはあのサマリアの女と同じように、信じると迷わずに答えました。そのときのイエスの言葉はエゴーエイミで始まります。
「エゴーエイミ、わたしは復活、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる」
マルタは兄弟ラザロの生き返りを見る前にこのイエスのことばを信じたのでした。
パウロのことばできょうの結びとします。みなさまに主の平和がありますよ

うに。

口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。ロマ書 10:9-10